



## (1) 液剤を使用する場合

- ① ドローンを活用して地域で一斉に散布する
- ② 動力噴霧器などを活用して散布する

※薬害を防ぐため、散布は風のない日に行いましょう

※イネカメムシに直接薬剤がかかるよう、早朝の散布がおすすめです

★薬剤体系(例)

1回目:キラップフロアブル      2回目:スタークル液剤10

## (2) 粒剤や豆つぶ剤を使用する場合

- 3～5cm程度の浅水状態で散布し、散布後数日は湛水状態を保つ

### 【粒剤】

- 散粒機を活用して畦畔から散布する
- ほ場の幅が30mを超える場合は中に入って散布する

### 【豆つぶ剤】

- ひしゃく等で畦畔からまんべんなく散布する
- ほ場の幅が30mを超える場合は中に入って散布する

★薬剤体系(例) ※液剤よりも数日早く散布する必要があります

1回目:キラップ粒剤      2回目:スタークル豆つぶ

川越農林振興センターでは、ホームページにてイネカメムシの発生状況などを更新しています。イネカメムシに関する最新情報は右のQRコードよりご確認ください。

